



さくくらら



6月 .2017

発行/ボーイスカウト世田谷第5団広報部

ビーバー隊 5月14日 工作 シーターポン作り とラリー準備

ビーバー隊

隊長 草嶋隆行

南野君、郡司君、深津君、水野君の4人の入隊式を行ない、東玉川地区会館に移動します。集合の奥沢駅からはちょっと遠くて20分ほどを12人の一列で歩きます。人数が多いと安全確保にも一層気を使います。無事に着いた後、まずは次週ビーバラーリーで使う牛乳パックぽっくりを作りました。持参した牛乳パックと補強用ダンボールで立派なぽっくりが出来ました。その次に恒例のシーターポン作り。それぞれが描いた絵をび厚手のビニールで挟み、毛糸で周りを縫って出来上がり！皆の前できちんと発表できました。



5月21日 ビーバラーリー

ビーバー隊

隊長 草嶋隆行

前週に続いて伊能君の入隊式を行ない、砧公園に移動です。12人のスカウトとなった5団ビーバー隊ですが、整列すると他の団と比べてひときわ列が長く、これも皆様のおかげです。開会式では区全体のスカウトで大きな輪を作ります。まずは他団スカウトと大きな輪を作ると普段の何倍もの大きさで、仲間の多さが実感できます。その後は今年のテーマ、ビバリンピック、に基づいたゲームをクリアしていきます。本物のパラリンピックでもある音の出るボールを使ったサッカーや、前週に作ったぽっくりを使ったリレー、サングラス姿のリーダーを探すポケモンGoをもじったゲームなどを楽しくクリアしていきました。今年も絶好の天気恵まれ、熱中症が心配でしたが大きなケガやトラブルもなく、無事終えることができました。



カブ隊

5月14日 葉山ハイク、自然観察

副長 太田雄介

前日の大雨に気を揉んでいましたが、朝までには雨は上がり、ホッとしました。

新スカウトの入隊式後、電車を乗り継いで逗子へ。新編成になってから初めての電車移動でしたが、大きく乱れることなく到着できてよかったです。

逗子のバス停から歩くこと15分。あっという間に仙元山の山頂に着きました。たった118メートルの高さですが、葉山の街並みを手前にして相模湾が一望できる景色は格別で、逗子マリーナから出たヨットが江ノ島方面まで白い帆を連ねているのが見えます。

それを見ながらカブ弁を食べた後は、各自で30分間の写生タイム。江ノ島を描く子、家々の屋根を丁寧に写し取る子、風景でなく目の前の虫や花を描く子、個性豊かで素敵な絵が揃いました。

そのあとは1時間ほどかけて山道を歩きます。山頂までは楽々なハイクコースなのですが、尾根を辿るそのコースはアップダウンが激しく、実はわりと本気の登山。前日の雨のせいもあってぬかるみに気を取られながら歩いていたら、予定時間よりも20分遅れての下山になってしまいました（後から聞くと、けっこうな数のスカウトが尻餅をついたそうです）。

山を抜け、葉山の住宅街を通過して森戸海岸へ。平地ではさほど隊列も崩れず、速めのペースで歩きました。今年のうさぎさんたちは、脚が強い。細い路地を抜けると、急にバス通りに出て、その先に山頂からも見えた森戸神社がありました。目的地です。

無事到着したことを神様に報告したあと、記念撮影。本来の予定では、すこし海で自由時間を取れるはずだったのですが、20分押しが響いていたのでやむなく断念。子供たちはとても残念そうで、申し訳ない気持ちになりました。せめて海を背景にした写真を、ということで集合写真を撮影して、バス停へ向かいました。

帰りの電車では座ることもできたのに、何人かはドアの前に集まって楽しそうに窓の外の景色を見ながらおしゃべりしたりする姿を見て、子供は元気だなあと実感しました。

定刻通り、九品仏に到着して解散となりました。ずっと曇り空でしたが、長時間歩くにはとても気持ちいい気候でした。日帰りで様々な景色を楽しめる、よいハイクコースだと思います。みなさん、ご家族でもどうぞ！その際は、海でゆっくり遊ばせてあげてください。

2組DL 石井無二

カブ隊に入り、初めての長距離移動。逗子まで交通機関を利用した移動は、子ども達にとっても、DLになって初めての私にとってもドキドキの経験でした。外の景色を眺めながら「あれは何か？」「早く着かないかな～」と楽しみにしていた子ども達でした。

仙元山のハイキングコースに到着し、いざ出発すると、早くも「疲れた～」「虫嫌だ～」と弱音を吐いていましたが、「頑張れ」「あと少しだぞ」と仲間同士励まし合

いながら、頑張って歩いていました。

山頂でのお昼ご飯では、お互いにおにぎりの中身を自慢し合いながら美味しく食べていました。食後の写生会では、「何描こうかな？」と相談しながら、花や虫、山頂から見える海や江の島などを描いていました。一枚丁寧にきれいに描く子もいれば、2枚、3枚と次々に描く子もいてそれぞれに個性がありました。

ハイキングコースは、前日の雨もあり、足場が悪いところもありましたが、ホテルやりすを見つけたり、山頂からのきれいな景色を眺めたりと自然を満喫できました。また、仲間同士助け合ったり励まし合ったりと、とても良い経験が出来たと思います。

1組しか

山登りではみんなと協力して登って上でスケッチを描いたときはとても楽しかったです。秋の大山登山もこのように頑張って登りたいです。

3組しか

今回は、葉山でハイキングをしました。252メートルの山だったので、楽に登れるかと思いましたが、坂が急だったので思っていたより大変でした。頂上に着くと、葉山の海や住宅地がよく見えてきれいでした。帰り道は、登りよりも、もっと大変でした。前日に雨が降ったので、土がドロドロにぬかるんでいて、すべりやすかったです。ぼくは、小ままだちょこちょこ歩きました。おかげで転ばずに下まで降りることができました。しかし、最後の最後に右足首を痛めてしまいました。いろいろ苦労したけど、楽しかったので、また行きたいです。



5月21日 隊集会 デイキャンプ@野毛

副長 中村静香

5/21に毎年恒例のデイキャンプを野毛町公園で行いました。先日の自然観察から二人入隊したので今回から4組体制になりました。昨年同様組ごとにカレーの材料を買うことから始め、オリジナルカレーを作ってもらいました。

隠し味にチョコレートを入れたり、チーズを入れたり、ひき肉にしたりして四種類のカレーが美味しく出来ました。

この日は晴天に恵まれ初夏を思わせる陽気の中、火起こしから始めて汗だくになりながら無事にカレーが出来上がりました。リンゴの芯取りを包丁でカットするのは難しかったらしく危ない手つきでハラハラしました。是非、ご家庭で練習してください。飯盒で炊くご飯は気をつけて見てなかったせいか炭のようになってしまいました。火を起こして調理する機会はなかなかないので良い体験になったと思います。

カレーコンテストの結果、僅差で4組が優勝しました。中辛、甘口をミックスしたカレールーに肉、玉葱、人参、ジャガイモの他チーズ、ズッキーニ、りんごが入っていました。

1組しか

ぼくは、今日火起こしで、まきをいっぱい入れすぎて、火がもえ上がりすぎて、すごくなってしまい、みんな近づけません。ぼくは、失敗したな—と思いました。今度は失敗しないようにちょうせいします。

2組しか

僕は、デイキャンプで野毛公園へ行きました。二組のみんなで作って食べたのが楽しかったので、来年もみんなとカレーを作りたいです。そして、来年こそはカレー作りで一位をとりたいたです。



ボーイ隊

5 / 1 4 備品整理、ほか

BS隊 オットセイ班

14日の活動では午前中に備品整理、午後には進級チェックや班ハイク計画、隊キャンプ説明など主に事務的なことを行った。午後の活動に関してはこれと言って特別なことがあったわけではないが、午前中の備品整理では色々な汚物が出てきた。例えばカレー粉がつきカビの生えたお玉。我がオットセイ班は久しくカレーを作っていない為犯人は恐らくトナカイかカモメだろう。非常に臭かった。

それから、僕のボーイスカウト活動史上初めて備品箱というものを洗った。長年の汚れが溜まっていた。

衛生環境面において鈍い僕でも流石にこれはまずいと思った。以後食器の手入れには念を入れよう。



ローバー隊

RS隊 廣畑優太郎

思うに、「続けること」が何にも増して重要なことなのではないか。このフレーズは私の好きな夏川草介の『神様のカルテ3』という本に記されていて、私はこれをモットーにしている。作中で、医者にとって一番大事なものとして挙げられているこのフレーズは、医者以外の様々なものについても当てはまるのではないか。私は細々とはあるが、スカウト活動を続けている。続けるということについて、つらつらと書いてみようと思う。

最近続けることの力を実感したのは、実に卑近な例だが、受験勉強である。単なる勉強ですら(むしろ勉強こそ、と言うべきなのかも知れないが)、続けることで大きな力に繋がる。ちまちまとでも毎日勉強を続けていれば、成績は着実に上がっていくことを実感した。

さて、スカウト活動について書こう。私は最近、殆どスカウト活動に参加できていない。もちろん、去年は受験生だったため参加できるはずもないのだが、そ

BS隊 オットセイ班

今回は、備品の整理や予定の確認をしました。備品の整理では、以前キャンプで使った備品などをきれいにし、予定の確認では、これから行われるボーイスカウトの活動の内容を再確認しました。以前までは、先輩方やリーダーに活動の内容などを毎回言われてきましたが、ボーイ隊にあがり一年が経ち、後輩が出来たいま、自分で予定や活動をきちんと理解し、後輩に良き先輩として尊敬されるようになりたいです。

BS隊 カモメ班

今回の活動はあまり楽しくなかったけど、午前中の備品整理は少し楽しかったです。食器を洗うときは、また三種の洗剤を混ぜ合わせて洗いたいです。



を

れを除いてもベンチャースカウトになったあたりから殆ど活動に出られていないはずだ。そんな自分の不参加ぶりを弁解しようというわけではないが、参加率が低かったとしても、やはり「続けること」に意味は確実にある、と感じる。

スカウト活動、特にボーイスカウトあたりからは実に様々な活動に参加することができる。これらの活動にときたまでもいいから参加してれば、気付いた時には随分色々なことをやったと思えるようになる。そしてなにより、続けていることそのものが一種のモチベーションというか、さらなる活動に参加しようという動機にもなっていくのだ。

スカウト活動を始めてから10年近く経つが、箸でのいかだ作りからテントと食料を背負っての八ヶ岳縦走まで、色々なことをやってきた。今思い返しても、なんとも楽しい体験である。これらの経験は、学校だけではなかなか味わえないものだろう。スカウト活動は、細々とであれ、やはり続けることに価値がある。逆に、スカウト活動で最も重要なこと、最も大きな力を持つことが、すなわち続けることなのではないか。そう私は感じる。

RS隊隊長 渡口要

B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインン ―観察と推論― (第4回/全8回)

ひとつ予言をしましょう。今年2017年のノーベル物理学賞は「重力波の直接観測」に対して与えられます。さあ、10月の発表をお楽しみに！

(つづき)

6. 論理=演繹=推論と幾何学

ニュートンは科学者ですが、もっと正確に言うと彼は物理学者でした。物理学が他の科学とどう違うのか、ちゃんと説明するのは難しいのですが、1つには数学が果たす役割が決定的に大きいことが挙げられます。そこで、物理学の話の前に、数学の話をししたいと思います。

既に述べたことの繰り返しですが、『Scouting for Boys』の中でB-Pが言ったように、スカウトにとって観察力と推論力を磨くことはとても大切なことです。そしてこの2つの能力は、良き市民にとっても、ホームズのような探偵にとっても、ズール一族にとっても、インディアンの子供にとっても、映画好きにとっても、医者にとっても、そして科学者にとっても大切なのでした(何度か示唆しているように、観察=実践、推論=理論、と対応付けると、これは理論と実践の問題でもあります)。

それでは、物理学者にとっての推論とはどのようなものなのでしょうか？ そのことを考えるためには、「推論」という言葉をB-Pが英語で何と書いているかが手がかりになります。推論は英語で"deduction"でした。この単語を英和辞典で調べてみてください。"deduction"には「演繹」という意味があることが分かります。演繹という言葉は馴染みの無いスカウトが多いかもしれませんが、ごく短く言えば、演繹とは「論理的推論」のことです。

と、言われても良く分からないと思うので、具体例を使って簡単に説明しましょう。論理的推論とは例えば次のようなものです。

前提1:スカウトは誠実である。

前提2: 誠実な人は幸せになれる。

⇒結論:スカウトは幸せになれる。

これは三段論法と呼ばれるものです。前提1と前提2が正しいと仮定した場合、三段論法における結論は絶対に正しくなります(本当は、もう少し込み入った話が論理学の世界にはありますが、ここでは詳しく説明しません)。ただし、前提1と前提2が正しい保障はありません。次の例はどうでしょうか？

前提1:スカウトは花嫁である。

前提2: 花嫁は幸せになれる。

⇒結論:スカウトは幸せになれる。

この推論は論理的に正しいでしょうか？ …正しいのです。「スカウトは花嫁である」が正しいとは限らないと思うかもしれませんが、三段論法はあくまで前提1と前提2が正しいと仮定した場合に、その2つの前提を組み合わせると正しい結論を導く、というものです。前

提1と前提2が正しいかどうかは、三段論法という論理的推論の正しさにおいては問われていないのです。三段論法をもっと抽象的に書くと、次のようになります。

前提1: AはBである。

前提2: BはCである。

⇒結論: AはCである。

このA, B, Cの中に具体的に何がいったとしても、三段論法自体は正しいのです。したがって、次のような例も論理的推論としては正しいということになります。

前提1: スカウトは爆発である。

前提2: 爆発は美味しい。

⇒結論: スカウトは美味しい。

以上で簡単に説明した三段論法は「演繹」あるいは「論理的推論」の1つの例ですが、多くの人にとって演繹とはほとんど三段論法のことだといっても良いでしょう。それでは、スカウトの皆がこの演繹(≒三段論法)を一番「きっちり」実践するのはどのようなときでしょうか？ おそらく多くのスカウトにとって、それは算数・数学の問題を解くときだと思います。

「数学とは何か？」ということに答えること自体、数学あるいは哲学上の大問題ですが、ここでは「いくつかの前提があるときにそれら前提に対して演繹を行い、様々な結論を導いていったときの、その前提と結論および使った演繹を全部集めたもの全体のこと」と言うておきましょう。数学における前提は「公理」と呼ばれます。演繹は、中学生以上のスカウトなら「証明」と呼ばれることを知っているでしょう。そして、結論は「定理」と呼ばれます。これらの言葉を使えば、数学とは「いくつかの公理を最初に決め、それらの公理から出発してたくさんの定理を証明すること」と言えます(ただし、数学者は後から公理を変更するということもやります)。

これもイメージを持ってもらうため、具体例を挙げましょう。紀元前3世紀の数学者ユークリッドによって完成されたと言われる「ユークリッド幾何学」です。小学校や中学校では「図形」という名前で呼ばれているかもしれませんが、このユークリッド幾何学の公理は、以下の5つです(ただし、ユークリッドの書いた『原論』では、これらは公理ではなく公準と呼ばれていました)。

公理1: 点と点を直線で結ぶ事が出来る。

公理2: 線分は両側に延長して直線に出来る。

公理3: 1点を中心にして任意の半径の円を描く事が出来る。

公理4: 全ての直角は等しい角度である。

公理5: 1つの直線が2つの直線に交わり、同じ側の内角の和を2つの直角より小さくするならば、この2つの直線は限りなく延長されると、2つの直角より小さい角のある側において交わる。

中学生以上のスカウトの皆が学校で学ぶ、例えば三角形の合同についての定理などの幾何学の定理(図形の定理)は、この5つの公理(前提)だけから出発して証明されます。そのようにしてたくさんの定理を上5つの公理だけからどんどん証明していくと、図形についての知識がどんどん増えていきます。そのような知識全体が幾何学とか図形とか呼ばれる数学(の1ジ

<平成28年度 定例育成会総会報告>

ヤンル)なのです。数学の授業や問題集で、皆さんは何度もこのような証明を教わったり自分でやってみたりしていると思います。それはつまり、数学の図形という世界で証明=演繹=推察のトレーニングをしているということなのです。

ところで、上の5つの公理のうち、最後の公理5は他の4つの公理に比べて少し長いですね。何を言っているのかも分かりにくい。正確さを犠牲にして公理5を言い換えると、「2つの直線は平行なら交わらないけど、平行でないなら必ず交わる」となります。これを皆さん「当たり前」だと思いませんか？ そう、数学の歴史において、ユークリッド幾何学におけるこの「平行線公理(平行線公準)」の問題は、2,000年以上に渡り数学者の議論の対象となってきました。ここでその話を全てすることは出来ませんが、1つ重要なことを、そしておそらく多くのスカウトにとってはショッキングなことを言っておきましょう。平行線が交わっても別にいいのです。

誤解無きよう急いで付け加えると、スカウトの皆が中学・高校で習う幾何学(図形)においては、平行線はもちろん交わりません。ここで言っているのは、もう少し正確に言うと、「平行線が交わるような幾何学を考えることが出来る」ということです。そして、そのような幾何学は突拍子もないようなものではありません。我々の周りに溢れています。例えば地球儀の上の幾何学がそうです。ボーイスカウトで使う地図は平らな紙の上に印刷されています。このような平面上の幾何学(図形)を考える分には、平行線は確かに交わりません。しかし、皆も知っている通り、地球は平面ではなく球体です。そして、球体上の(つまり地球上の)

平行線は交わるのです。嘘だと思ったら、経線(経度線、子午線)が書き込まれている地球儀を見てください。たしかに北極と南極で経線が交わっています(緯線、緯度線は交わっていないじゃないか!と思ったスカウトは鋭い!これについては、説明がさらに長くなるので勉強会等で訊いてください)。

逆に言えば、本当は(地)球面上に存在する我々の世界を平面上で表現するとき、地図はある種のごまかしを行っているのです。2016年3月号のさくらで渋川春海や伊能忠敬を紹介したとき、「大学レベルの数学を使った球面三角法というものあって、地球が丸いことを考慮した測量が出来ます」と書きました。この球面三角法が、ごまかし無しに球面上の幾何学を考える方法の1つなのです。

以上のことをまとめると、こういうことです。ユークリッド幾何学(平面上の図形の学問)は上に書いた5つの公理を採用しているが、最後の「公理5:平行線は交わらない」を「公理5':平行線は交わる」に変えても、別の幾何学を作れる。そして、このような幾何学のことを非ユークリッド幾何学と呼ぶのです。ユークリッド幾何学が「平面上の幾何学」だとすれば、非ユークリッド幾何学は「曲面上の幾何学」だと言えます。例として挙げた球面上の幾何学は、球面幾何学と呼ばれる非ユークリッド幾何学のうちの1つですが(球面は、曲面の1種です)、非ユークリッド幾何学には他にも様々なものがあります。その中でも特に重要なものの1つがリーマン幾何学と呼ばれる幾何学ですが、これについてはもう少し後でアインシュタインを紹介するときに触れましょう。

(つづく)

会議報告

育成会総会 5月13日(土)13:30~14:25 九品仏地区会館2階(大広間)

育成会役員会 5月13日(土)14:30~15:30 同上

- 新旧役員 自己紹介
- スカウト保護者への連絡について
- 団キャンポリーについて
- 育成会年間業務のプリント配布
- 各担当引継ぎ

会議予定

育成会役員会 6月11日(日) 10:00~ 場所:未定

<キャンポリー実行委員会>日程予定:

6月9日(金)、6月18日(日)、7月1日(土)、7月15日(土)

いずれの日も 20:00~ 奥沢区民センター

*キャンポリーまで団会議は開かれず、<キャンポリー実行委員会>のみとなります。

*開会の挨拶

*資格審査:出席者31名、委任状32通、計63名

→ 育成会正会員数(79) 過半数に達しているので総会成立

*議題

(1)平成28年度 活動報告、会計報告及び監査報告 :承認されました

(2)平成29年度 活動計画、予算案 :承認されました

(3)平成29年度 育成会、団役務奉仕者選任 :承認されました

(4)その他

*平成29年度 育成会 団役務奉仕者

<育成会>

会長 澤武雄

副会長 河田真理子 草嶋育子

書記 和田緑 村山朋子

会計 佐藤薫 近藤知夏

会計監査 榎原友紀 河津若来

<団委員>

花俣裕二 澤武雄 横山寿美夫

高柳彰男 山田裕紀 保科千鶴子

<各隊隊長>

ビーバー隊 草嶋隆行

カブ隊 土屋彰男

ボーイ隊 石崎琢磨

ベンチャー隊 山田良磨

ローバー隊 渡口要



*団委員長より挨拶

スカウト数が順調に増え、世田谷地区では18個団中上位。

ボーイスカウトは小学校から大学まで活動する一環教育。中学から大学が本番であり、活動の継続を望む。

今年は65周年、来年は4年に1度の日本ジャンボリー開催。対象スカウトは是非進級を頑張って参加してほしい。

<育成会副会長からご挨拶>

育成会副会長 草嶋育子

今年度、育成会副会長を務めさせていただくことになりました草嶋育子と申します。8年前、長男が小学校1年生の時に入団して以来、団委員長をはじめ隊長、副長、リーダーの方々、そして育成会の皆様にお力添えをいただきながらここまでやってこれました。今では小3の次男もこちらでお世話になっており感謝の気持ちでいっぱいです。何か私に出来ることはないか、との思いで引き受けさせていただきましたが、分からないことばかりで今は一日も早く仕事を覚え、皆様のご迷惑にならないよう一つ一つこなしていきたいと思っております。団行事等で皆様のご協力をいただくことがあるかと思っておりますがどうぞよろしくお願い致します。

育成会副会長 河田真理子

今年度、育成会副会長をさせていただきます、河田真理子と申します。カブ隊に兄がおり、ビーバー隊に弟も入隊しまして、二人ともお世話になっております。副会長は2年目となりますので、前年度に教わったことを最大限に生かし、皆さまが気軽に参加できる育成会にしていけるよう、微力ながら努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。